＜先週の説教から＞

『ルカ55― もう泣かなくともよい』

武田真治牧師

列王記上 17：17～24 ルカ福音書 7：11～17

本日の聖書の箇所は“お葬式”で始まっています。即ち「それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎだされるところだった」です。当時のお墓は町の外の高台に造られていました（土葬であり、死体に触ると“汚れる”から)。そこまで遺体を「担いで」運び出す葬列の途中であったと分かります。しかも「その母親はやもめであった」と書かれています。夫も既に亡くなり、彼女が頼りにしていた一人息子でした（経済的にも彼が支えていた)。その子を亡くしたのでした。その悲しみと喪失感はどれほど厳しいものでしょうか。「町の人が大勢そばに付きっていた」のですが、何も言葉を掛けられない状態だったでしょう。そのような時に出会われたイエス様は、まず何より「この母を見て、憐れに思われた」とあります。この「憐れに思う」は有名なギリシア語で（スプラグクニゾマイ＝自分の内臓がよじれるぐらいに同情する）で、この単語はマタイ、マルコ、ルカの３つの福音書に１２回登場し、いずれも神様かイエス様が使っておられます。神様からすれば、愛する一人息子を十字架につけられて殺されるためにこの世に送らなければならなかったのであり、そのイエス様も自ら神の子として人々の罪をすべて代わりに背負って死に行く定めであることを分かっておられました。故に余計に、この母親の辛い悲しみに深く心を寄せられたのでしょう。そして、誰も掛ける言葉を失っているような状況の中で、イエス様だけがこの母親に『もう泣かなくともよい』と言われます。

この言葉は、母親からすれば『どうして泣く必要がないのか？』『何の根拠があってそんなことが言えるのか？』と逆に問い詰められるような言葉です。その根拠こそ“新しい生命の付与”でした。イエス様はその棺に触れ『若者よ、あなたに言う。起きなさい』と言われたのでした。すると「死人は起き上がってものを言い始めた。イエスは息子をその母親にお返しになった。」のでした。どんなにか母親は驚き、そして喜び、イエス様に心から感謝したことでしょう。

この出来事が、この後の教会にとても大きな希望を与えて行った理由は、イエス様は私たちの失った悲しみに自らの身をよじられる程に「同情し」その悲しみを引き受け『泣かなくともよい』ようにしてくださる方だということを教えてくれる出来事だということと、もうひとつ、大事な点は、この母親の方からは一言もイエス様にお願いをしていないにもかかわらず、深く憐れんでくださって、彼女の愛する一人息子を取り戻させてくださったという点です。この二つの出来事が、後々の本当に悲しみに打ちひしがれた人たちにとっての《励まし》となり《生きる支え》となって行ったのでした。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．10月1日（水）20：00
　　　　　　　　　　Ⅱ．10月2日（木）10：30

聖書研究：　ローマの信徒への手紙
祈祷主題：　世界聖餐日を覚えて
担 当 者：　(水) SY　(木) MR
祈りに覚える人：　IHさん　AHさん

【教勢報告】

主日礼拝　　男21　女54　計75
祈祷会　Ⅰ.男3　女3　計6　Ⅱ.男1　女7　計8
日曜学校　　幼稚科7　小中科5　計12
ひつじ雲の会＜9月22日(月)＞　女4　計4

【次週主日礼拝】　１０月　５日（日）

聖　書：イザヤ書　３５：５～１０
　　　　ルカによる福音書　７：１８～２３
説　教：「ルカ56 ― 見聞きしたことを伝えよ」
　　　　武田 真治 牧師
讃美歌：２(1)、３２、５７、３９４、５６４、７５(1と2)、２７(1)

【次週当番表】

司式:KH長老　奏楽:MA　礼拝:HS長老
配餐：SY、HS、AS、IH各長老
献金：NS　HN　受付：NE　MH
会堂準備：浅井愛子　阿部タカ子　齋藤みちゑ　山田悦子
看板：HS　週報：II　お花：MH

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会　・求道者会
礼拝後：・10月誕生者祝福　・聖学院大学聖歌隊とハンドベルの教会コンサート13:30～
　　　　・長老会　15：00～

66-39

週　報

2025年度　教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

２０２５年　９月　２８日

日本キリスト教団　上尾合同教会
牧　師　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549